

# WEBIO (E1000)シリーズの概要

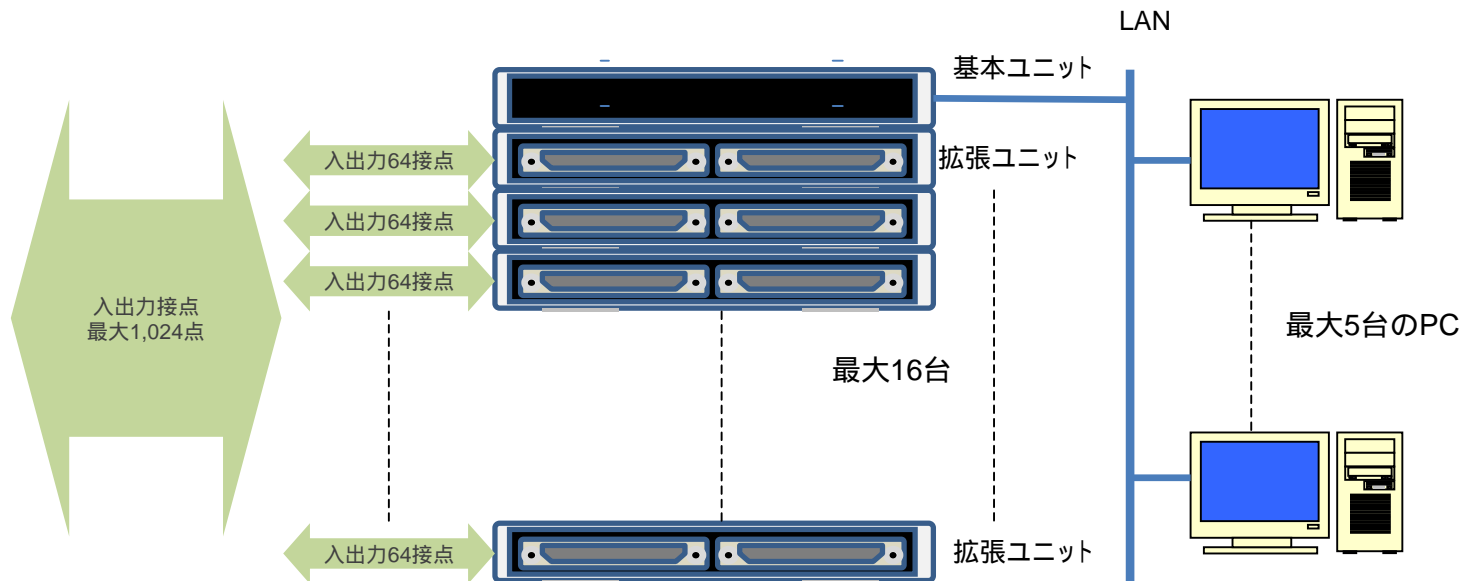
2010.7.23

株式会社ライフトロン

## 1. 1つのIPアドレスで1024点の入出力接点のハンドリングが可能

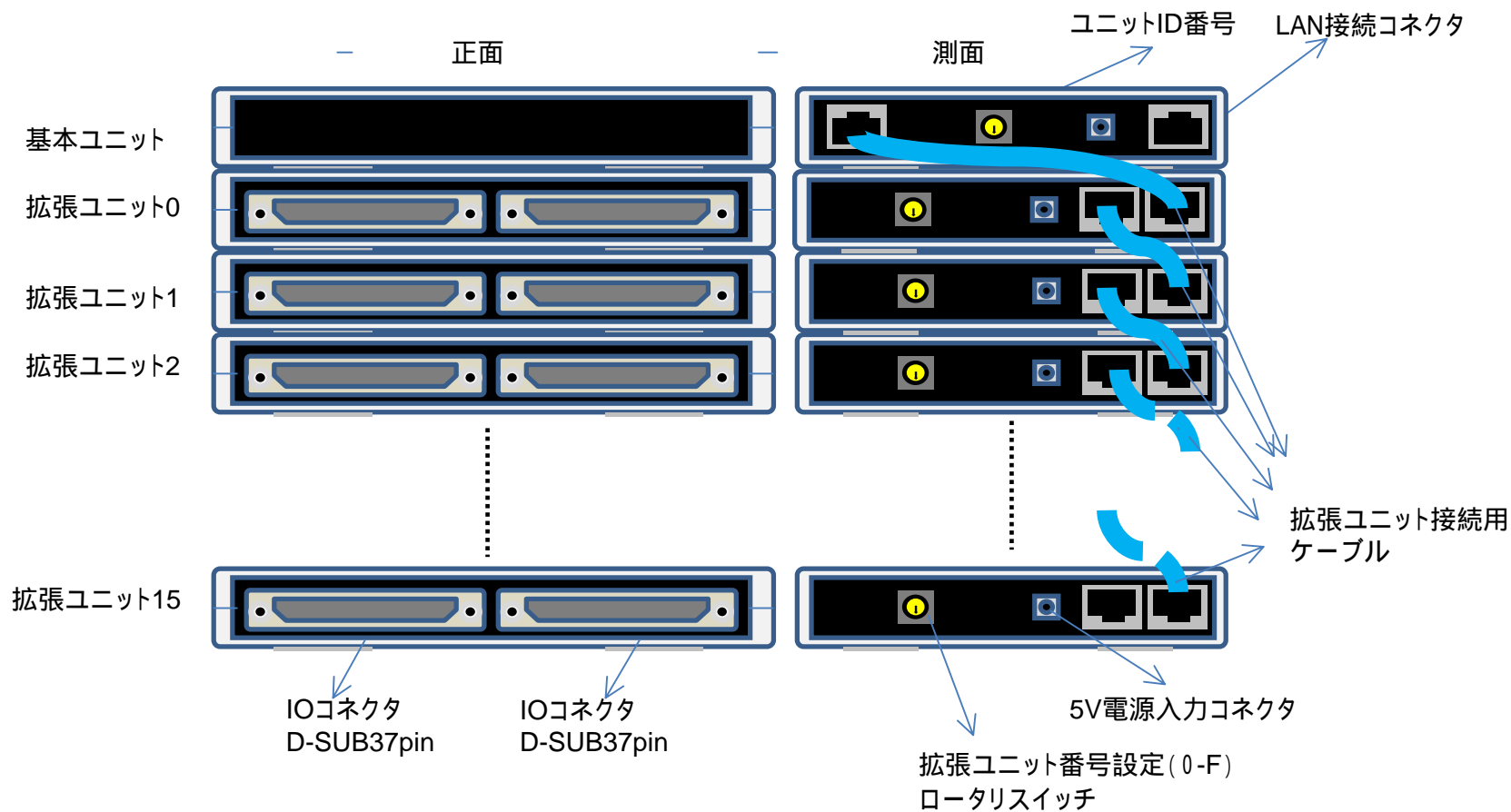
E1000シリーズは基本ユニットCPU(E1000), 接点入力用拡張ユニットDI-64(E1000)と接点出力用拡張ユニットDO-64(E1000)から構成されます。基本ユニットに対して64点単位の拡張ユニットを必要数、最大16台の増設を可能にしました。

IPアドレスの設定は基本ユニットに対して行うだけです。従来は入出力の各ユニットにIPアドレスを振り当てる必要がありました。



## 2. LANストレートケーブルで拡張ユニットを増設

ユニットの増設はケーブルでユニット間をカスケード接続するだけです。全長16m以内に全ユニットを配置します。



### 3. モニタソフトで全1024点の入出力接点状態を一度に確認・操作が可能

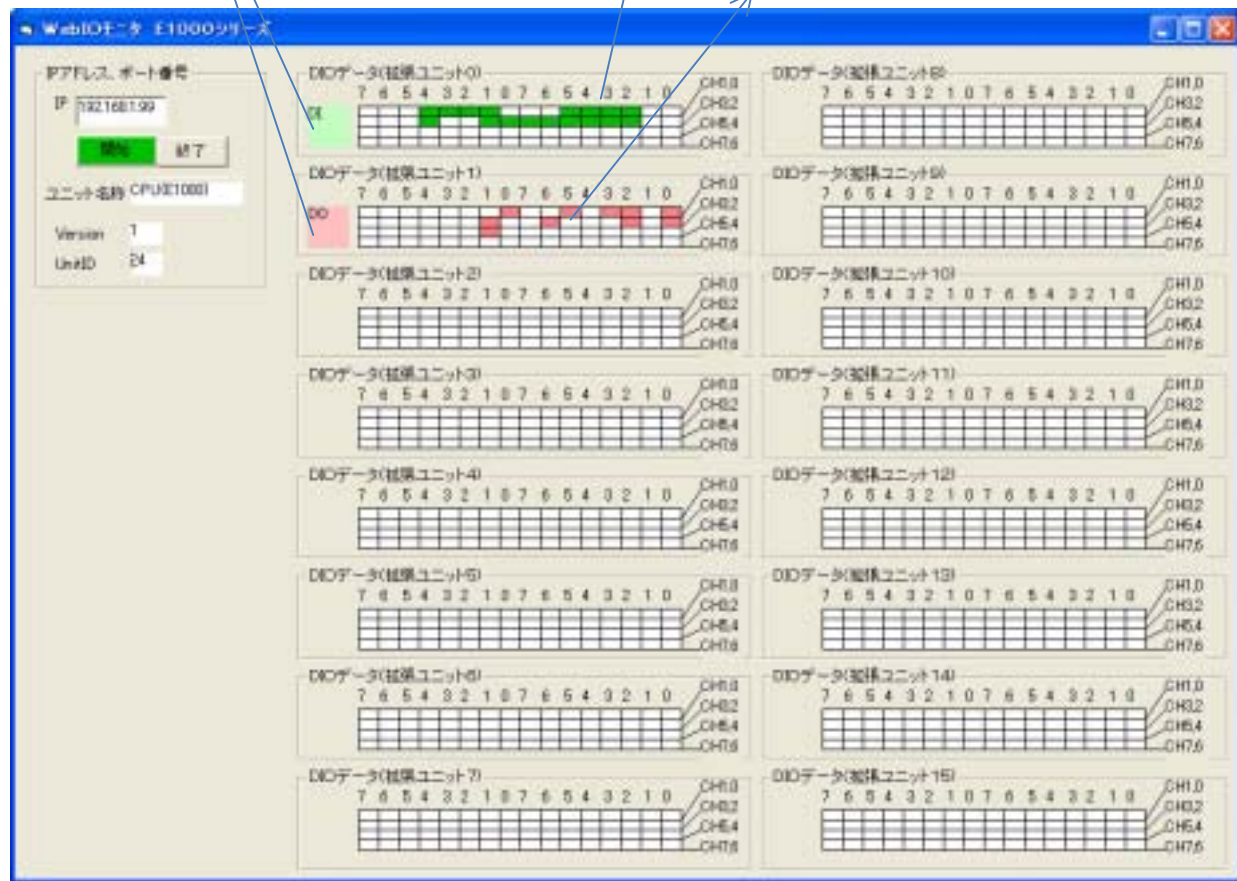
パソコンから「WebIOモニタ」を起動し、基本ユニットにアクセスすることで拡張ユニットの接続状態、全入出力接点のオン・オフ状態を確認することが出来ます。また、任意の出力接点のオン・オフ操作が可能です。

拡張ユニット(DI-64(E1000),DO-64(E1000)の接続状態を確認することができる。  
下図ではDI-64が拡張ユニット0に、DO-64が拡張ユニット1として接続されている。

入力接点のオン状態を緑色で確認できる。

ボタンのクリックで出力接点がオンになり、赤色で確認できる。再度クリックすると接点はオフになる。

ユニットのIPアドレスを入力し「開始ボタン」をクリックするとユニットに接続する。



## 4. 従来の(E)シリーズとの互換性

従来の(E)シリーズと基本機能は互換で(E)シリーズとの混在が可能です。  
ただし、1,024点までの入出力に対応するために「WEBIOモニタ」、「DLL」、パケット仕様をバージョンアップしています。

項目	互換性	備考
インストーラ操作		完全互換
WEBIOモニタ		ニューバージョン1,024点の入出力に対応
DLL、関数仕様		拡張ユニットへのアクセス用にWEBIO1000_ReadDIO、WEBIO1000_WriteDIO追加
パケット仕様		CH指定0-15を0-127に変更

以上